

## そうだ、弁護士になろう

会員 岡本 弘之



### これまでの自分を振り返って

この文章が掲載されるのはもう少し先であるが、今は2月、キーボードを叩いている今日で、弁護士として勤務を始めてから1カ月が過ぎた。まったく、矢のように過ぎた1カ月であったが、ここで少し、これまでの振り返ってみようと思う。

こうしてみると、今何よりも感じることは、自分が曲がりなりにも弁護士として働いていることの意外さだ。私は、幼少の頃から、いわゆる優等生ではなく、学校の成績も決して良いとは言えず、弁護士などはおおよそ無縁の世界で生きてきた。私が弁護士を目指した理由が知りたいなどという方がいるならば、後で個別に質問の時間を設けるとして、とりあえず、私は24歳の時に弁護士を目指すことを決め、生まれて初めて法律の本を開いた。

一念発起、といえば聞こえはよいが、どちらかといえばダメ元に近い。いや言葉は悪いがヤケクソと言うべきか。周囲の人間は呆れて物も言えなかったはずだ。

そのような私であったため、受験勉強を始めた後は、決して大袈裟ではなく本当に、普通の受験生の倍近い時間をかけて勉強した。それでもまぐれで合格したことは内緒である。

### 「未来は決められていない。 自分の手で切り開くものだ。」

議論はあるものの、現在司法界では、多様な人材を法曹にという流れがある。ただ、司法制度改革云々のようなスケールの大きな話ができるほど、自分はスケールの大きな人間ではない。こんな私が、あまり大きなことを言っても空虚に聞こえてしまうに違いない。そこで、一つだけ伝えようと思う。

「未来は決められていない。自分の手で切り開くものだ。」これは、私が幼い頃大好きだった映画に出てくるセリフである。誰にも、決められた未来などない。努力することで、いかなる道にも進むことができる。

ちなみにこの映画は、主人公が未来からタイムスリップしてきた某元州知事扮するサイボーグと共に、起こるはずの未来を変えて人類を救うというお話である。なんとも壮大なスケールだ。空虚に聞こえないことを願う。

### 努力することの大切さ

もし、周囲に、一步を踏み出せずにいる人がいたならば、私のような例があることを、努力によってどのような道にも進めることを、ぜひ伝えていただけたら幸いである。

もっとも、私個人に関して言えば、自らの努力だけで道を開くことができたわけではない。これまでに出会った素晴らしい仲間や恩師、そして、私がどのような生き方をしているか、見守ってくれた父、母、兄、祖母、犬がいたからこそ、今の自分がある。みんなに、星の数ほど感謝している。

これからも、努力を惜しまず、自分で未来を切り開かねばならない。目の前には、未知の世界が広がっている。しかし、今、私の目の前には、見渡す限り中華料理屋が広がっている。新橋のサラリーマンは、よくもまあラーメンばかり食べていられるものだ。昨今肥満が社会問題となっている中で、連日ラーメンを食べるなど愚の骨頂である。

これまでに出会った素晴らしい仲間、10年後の同窓会で気付いてもらえない事態になどなってはならない。昨日は並盛だった。今日も並盛にした。明日も並盛にしておこう。愚の骨頂である。健康にも気を付けよう。